

- 氏名： 河瀬 賢一郎
- 会員番号： FE-0253
- 専門分野： 電気
- 試験日と会場名： 2007/10/28 芝浦工業大学 豊洲キャンパス
- PE 試験挑戦回数： 1 回
- 使用した参考書、問題集：

以下の A～D を使用、適宜大学の教科書や資格試験取得時に使用した書籍を参照

A. Electrical Engineering Reference Manual:For the Electrical and Computer Pe Exam (Electrical Engineering Reference Manual) 7 版
2006/11/30

18 項の大項目から構成され、各大項目はさらに章にわかれている。合計 70 章あり、各章はさらに小項目で構成されている。小項目ごとにトピックが解説しており、ところどころ例題と解法が載っている。参考書的な構成のため input 学習に適しているが、outoput 学習には別途問題集を用意する必要がある。

B. Practice Problems for the Electrical and Computer Engineering PE Exam:
A Companion to the Electrical Engineering Reference Manual 7 版
2006/11/30

章の構成は A と同じであり、章ごとに練習問題と解法から構成されている。午前問題、午後問題という実際の試験の雰囲気味わうには C などの問題集が必要である。

C. Electrical And Computer PE Sample Examination 2 版 2006/1/30
午前問題 40 問、午後の各科目ごとに 40 問の合計 160 問とその解法から構成されている。

D. Six-Minute Solutions for Electrical and Computer PE Exam Problems (ペーパーバック) 2 版 2005/11/1

章の構成は B と同じである。練習問題 110 問とその解法から構成されている。

- 勉強時間：約 130 時間

(2007/9/15 ～ 2007/10/27 の期間で土日祝日 16 日×5h = 80h、平日 50h)

- 試験場に持参した図書類：前述の 4 冊と以下の 16 冊

無線工学 B アンテナ系及び電波伝搬
ISBN4-8076-0316-7
2,415 円 電気通信振興会
第 1 級陸上無線技術士受験時に使用

アンテナ入門
ISBN4-627-73340-2
1,854 円 森北出版
第 1 級陸上無線技術士受験時に使用

1 陸技 無線工学 B
アンテナと電波伝搬 完全マスター
ISBN978-4-8076-0482-1
3,150 円 電気通信振興会
PE 受験のためにあらたに購入
(最近出版された本)

アナログ回路の基礎演習(I)
ISBN4-274-03326-0
2,600 円 オーム社
大学時に電子回路演習の補助として使用

アナログ回路(II)
ISBN4-274-03181-0
2,500 円 オーム社
大学時に電子回路演習の補助として使用

基礎電気回路 1
ISBN4-563-02124-5
1,957 円 培風館
大学の電気回路の教科書

アナログ電子回路
ISBN4-7856-1140-5
2,781 円 昭晃堂
大学の電子回路の教科書

デジタル電子回路
ISBN4-7856-1156-1
2,781 円 昭晃堂
大学の電子回路の教科書

電気学会大学講座
回路理論基礎
2,400 円 オーム社
大学の電気回路演習の教科書

電気学会大学講座
過渡回路解析
2,163 円 オーム社
大学の電気回路演習の教科書

電気学会大学講座
誘電体现象論
3,050 円 オーム社
大学の物性の教科書

電気・電子計測
ISBN4-254-22705-1
2,987 円 朝倉書店
大学の電子計測の教科書

半導体物性 II
ISBN4-254-13545-9
3,914 円 朝倉書店
大学の半導体の教科書

FE 試験のときに使用した
リファレンスハンドブック
第 4 版

デイリーコンサイス英和英辞典
第 3 版

英語-日本語電気専門用語辞典

計算機の取扱説明書

http://www.geocities.jp/ps_dictionary/

ry/

合計 20 冊

を印刷してクリップで留めて 1 冊にしたもの

合格体験記

2007/10/28 (試験当日)

会場には待合室として 1 つの教室が用意されている。待合室では持参したチョコレートを大量に摂取する。計算機のチェックを受けて、持ちこめるものを用意して、持ち込み不可の物をかばんに入れる。参考書とガムとペットボトルの茶と計算機とパスポートと現金と黄色い受験票を持ち込む。

FE 試験を受験したときはなかったが、今回は試験開始前の説明中に、日本語でしかも 프로젝터를使って、答案用紙の氏名等の記入方法を丁寧に解説していただける。答案用紙の記入方法まで考えていなかったのも、大変助かった。それでもわたしは間違えて、途中で試験官が指摘してくれる。記入が長引き、10 分ほど遅れて午前の試験を開始する。

まず 40 問を見る。そして、最初から 1 問ずつ解いていき、時々参考書を見る。似たような問題は半分くらいしかない。確実にできたといえる問題も半分くらいである。時間的には 1 回見直してちょうど 4 時間である。まったく解けなければあきらめて次へ進めるが、解けそうに見えると考えこんでしまって 1 問に何分も費やすというパターンが数問ある。捨て問との選別が難しいと思う。

時間がおしていたこともあり、昼食時間は予定より短く、全員そろった時点で午後の試験が始まる。この午後問題の難度には度肝を抜かれる。1 問目を見てまったくわからず、ページをめくっていても解けそうな問題がない。というか、見たことがない問題ばかりで何じゃこりやって感じである。科目を間違えたのかと思うが、自分が選択した科目で間違いない。ここで不合格を確信する。もしかして Power のほうが簡単かもしれないと思い Power をみるが、こちらもさっぱりわからない。

78,000 円払って、願書を書いて、参考書を買って、娘ともあまり遊ばず、問題を解いて、今まで何やっとなんだーと、むなしくなってくる。気を取り直して、だめもとで最初からシコシコ解くことにする。必ず 1 問 6 分で解けるんだ、という思いでじっくり問題文を理解し、直感で解いていったのが結果的によかったのかもしれない。

午前の問題では感じなかったが、午後は原理原則を問うていて、それを知っていると解けてしまう問題が多い気がする。今はもう、どんな問題をどのように解いたかは覚えていない。トランジスタ、FET、伝達関数、ボード線図、AM 変調、アンテナ利得が出る。ひとつおりの解答したものまったく手ごたえがなく、あきらめムード満点で途中 10 分ほど Computers の問題を 40 問眺める。一応気分転換にはなる。そして解答した 40 問を一回見直して試験が終了する。これほど手ごたえのない試験はかつて記憶がない。

8 時間が終わって、くたくたで帰路に着く。こんな出来なので次回へつなげるため新幹線の中で、出題された問題を思い出しつつメモするべきだが、あまりのむなしさで何もする気がおきない。かといって寝ずぐすと名古屋を通過してしまうので、寝ない程度にぼーっとする。ひたすら疲れた 2 日間であった。

わたしが使った 4 冊の参考書は午後問題にはまったく対応していないこと、そして NCEES 発行の参考書が有効らしいことを、あとから米国の掲示板で知る。そういえば、過去に PE に合格した人が、この問題集を使ったということを聞いた気がしてくる。しまった。

2007/12

そろそろ不合格通知が届く頃ではないかと思いながらネットを気にする。JPEC の HP では 2008 年春期の PE 試験の出願締め切りが 1/7 になっている。速攻で出願するにしても、再受験は願書の様式が異なって記入に手間取る可能性もあり、状況次第では間に合わないかもしれないと思っていると、受験不合格者は出願期限延長の告知があり一安心。

2008/1/12

エクスパックが届く。合否通知だとすぐわかる。妙に薄いので、再受験の願書が入っているのかという悔しい思いで開封すると、なんと合格通知ではないか。感無量。

Professional Engineer という資格に知り合ってから約 8 年、リファレンスのあてがなくひよっとしたら受験すらできないかもしれないと思っていた試験に、まずは合格することができて感動しております。時間的、金銭的に迷惑をかけたが協力してくれた家族に感謝するとともに、試験に関する多大な情報の提供とお力添えを賜りました JSPE、JPEC の関係者さまに心から感謝申し上げます。そして、これからも変わらぬご愛顧をよろしく願います。